

アクティブシニアをめざす

- 日時：2023年5月11日
- 場所：豊中市地域共生センター
- 学習テーマ：午前／豊中市の地域ガイドさんに聞く
午後／豊中の歴史散歩
- 講師：NPO 法人とよなか・歴史と文化の会 山田 哲夫様 他

二班 笹部 美根子 記

【午前は講義と見学】

「NPO 法人とよなか・歴史と文化の会」の発足から現在に至るまでの経緯と活動内容について、また、これから案内していただく桜塚古墳群の概略の説明をしていただきました。

その後、街歩き開始です。

まずは、大塚古墳・御獅子塚古墳の上に上り、出土品の写真を見せて頂きながら解説を聞きました。普段は立ち入れない御獅子塚古墳の上に上がると、前を通っているだけでは気づきませんでした。前方後円墳であったことがわかり、驚きました。大塚古墳は、円墳でした。名前は知っていてそばを通ることはあっても、説明していただきながらその場に立つと、改めて知的好奇心を刺激されます。



大塚古墳
教室から少し足を延ばすと到着しました。



出土品の写真
古墳の上に写真を置いて説明を伺うとリアリティ満点。

【午後のコースは】

まずは能勢街道の一部を通過して、原田神社、大石塚・小石塚古墳、伝統芸能館を訪問。大石塚古墳の周りから出土された埴輪などが、伝統芸能館に展示されていました。小石塚古墳は、まだ調査が進んでいないそうです。伝統芸能館に入ると、ロビーの足元から天井までの大きなガラス越しに、大石塚古墳を横から見る事が出来ました。

最後は、ガイドの山田さんの案内で原田城跡・旧羽室家住宅に向かいます。

ここからはボランティアガイドの河合さんも合流し、二人で班別に案内してくださいました。

旧羽室家住宅は、原田城跡（北城）の一部に昭和12年に建てられ、国登録有形文化財だそうです。

和洋折衷の建築で、随所に意匠を凝らした建物です。

ササラ梁や網代天井・松の1枚板の床板等の解説しながら案内をしていただき、更に理解が深まりました。

座敷から見える庭は、城の土塁を築山に見立てて造られており、とても風情があります。

窓や縁側に嵌められている大正ガラスは、阪神淡路大震災の折にも一枚も割れずに残ったそうです。

地盤や普請が良かったのか？



原田城跡・旧羽室家住宅
縁側の大正ガラスは表面が波打ってます。

【宅地開発から守る】

また、この辺りは九名井(くめい)という人工の水路があるそうです。

室町時代に、現在の伊丹・尼崎・豊中の九ヶ村の田んぼを灌漑するために作られたとか。猪名川から千里川の下を、なんと暗渠でひいて作られたそうです。その時代にそのような技術を持った人がいたのは驚きでした。

現在の地図でも、その名残の水路を見ることができます。

住宅地のそばにありながら、宅地開発の波に呑み込まれなく残されているのは、地域の方々の意識の高さの賜物だと思います。これからも広く周知をしてさらに長く保存していきたいものです。

【むすび】

4月20日の体力測定・4月27日の健康寿命を延ばすには、という講義を受けた後、アクティブシニアをめざすにはまずは体力の維持と好奇心を持つこと。痛感した今日でした。夏を思わせるような日差しの中でしたが、仲間と一緒に歩くことが出来て、良かったという

声も聴きました。

それにしても、ボランティアガイドのお二人はアクティブシニアを地で行くような方々で、たいへん刺激をいただきました。お世話になりました。